



シグマ型統合能力人材育成プログラム

本学の「シグマ型統合能力人材育成プログラム」が平成20年度大学院教育改革支援プログラム（平成21年度より「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に名称変更）に採択されました。

文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」は博士課程、修士課程を対象とし、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する優れた組織的・体系的な教育取組みに対して重点的な支援を行なうことにより、大学院教育の実質化を推進することを目的としています。

平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」

※平成21年度より「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に名称変更

シグマ型統合能力人材育成プログラム

シグマ型統合能力人材とは、工学研究能力、複眼的工学能力（専門に閉じない複数分野の工学的知見を理解し活用する能力）、技術経営能力、メタナショナル能力（自国の利益を基盤として国際的視野から社会的価値創造を実現できる能力）を兼ね備えた人材をいい、その育成は、本学全体の教育プログラムの中心と位置づけています。

文部科学省『大学院教育改革支援プログラム』

『シグマ型統合能力人材育成プログラム』詳細

このプログラムでは、博士課程における、主専攻を中心とした工学研究クラスターと併せて、機能クラスター（技術経営クラスター、イノベーション推進クラスター、国際交流クラスター）による指導体制を整備し、キャリアパス形成支援、経済的支援の強化、海外の大学等と協力した人材育成プログラムを活用しながら、産業界に貢献できる視野の広い博士の輩出を目指します。